

Formula NIPPON NEWS 2010.9.26

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第5戦・決勝 [スポーツランド SUGO]2010 年全日本選手権フォーミュラ・ニッポン 第5戦 決勝大嶋 和也(PETRONAS TEAM TOM S)が自身初優勝！！

昨日の曇天から一転、秋晴れとなったスポーツランド SUGO。眩い陽射しの下、フォーミュラ・ニッポン第5戦の決勝が行なわれ、随所で激しいバトルが繰り広げられた。その戦いの中、ノーピット作戦を敢行し自身初の優勝を遂げたのはNo.37 大嶋 和也 (PETRONAS TEAM TOM'S)。通常のピットイン作戦を採り終始プッシュを続けたNo.1 ロイック・デュバル (DOCOMO TEAM DANDELION RACING) が2位、No.36 アンドレ・ロッター (PETRONAS TEAM TOM'S) が3位に入賞した。レース終盤にトップに立ったNo.19 J.P. デ・オリベイラ (Mobil 1 TEAM IMPUL) は、ファイナルラップでまさかのガス欠によりストップ。ノーポイントに終わっている。その結果、シリーズランキングでは、5位に入賞したNo.32 小暮 卓史 (NAKAJIMA RACING) がトップに浮上。オリベイラとデュバルが3ポイント差、ロッターが5ポイント差でこれを追うことになり、チャンピオンシップはますます混戦模様となった。

午後2時半、フォーメーションラップがスタート。この時点で、気温は21、路面温度は33まで上昇し、温かなコンディションとなる。1周の隊列走行を終え正式スタートが切られると、まず抜群の加速で小暮がトップに立つ。デュバル、No.8 石浦 宏明 (Team LeMans) がこれに続いた。またスタートでの加速に失敗したオリベイラとロッターが1コーナーで並びかけるが、2台は軽く接触。アウト側にいたオリベイラは、ハーフスピンする形でバランスを崩す。さらに、これを立て直そうとカウンターを当てたところで、オリベイラは左フロントをNo.31 山本 尚貴 (NAKAJIMA RACING) の右リヤにヒット。山本はスピンを喫し、コース上にストップした。またオリベイラの方もフロントウィングを破損し、左フロントタイヤもパンクさせてしまう。後方では、2コーナーの入り口でNo.16 井出 有治 (MOTUL TEAM 無限) がNo.18 平中 克幸 (KCMG) に追突。平中はコースアウトし、タイヤバリアにクラッシュ。ここでレースを終えることとなった。この直後、コース上には山本のマシンを回収するために、セーフティーカーが導入される。この間に、マシンにダメージを負ったオリベイラと井出はピットイン。オリベイラはノーズ交換やタイヤ交換だけでなく、給油も行って同一周回で隊列に戻った。

4周を終了しセーフティーカーがピットロードに戻ると、レースは再開。ここでポジションの入れ代わりが起きる。リスタート直前の最終コーナーから小暮の背後にピタリとつけたデュバルが、1コーナーでオーバーテイクに成功。トップを奪い返すと、2番手以降のマシンを大きく引き離し始めた。また6周目の1コーナーでは、No.10 塚越 広大 (HFDP RACING) がロッターをオーバーテイク。4番手に浮上している。しかし塚越は、14周目にスローダウン。ドライブシャフトに問題を抱え、駆動が路面に全く伝わらない状態となってしまい、リタイヤを余儀なくされている。この時点でのオーダーはデュバル、小暮、石浦、ロッター、No.2 伊沢 拓也 (DOCOMO TEAM DANDELION RACING)、大嶋となった。

上位陣のピットに動きが出始めたのは、62周のレースの3分の1が過ぎたあたりから。25周を終えてまず真っ先にロッターがピットに入る。その3周後の28周終了時には石浦が、石浦のピット作業はロッターよりも2秒余り長かった。そのためピットアウトした時には、ロッターに先行される。さらに、30周を終えたところで、小暮がピットイン。リヤタイヤだけを交換する作戦を採った小暮は給油時間も短く、わずか10秒1というストップ時間でロッターの前でコースに戻った。そして32周を終えたところで、トップを走っていたデュバルがピットイン。やはり小暮の前で、コースに戻っている。その後小暮とロッターの争いは激化する。2本交換の影響から小暮はアンダーステアに苦しみ、ペースをなかなか上げられなかったため、ロッターが真後ろに迫る。34周目の1コーナーではいよいよロッターからアウト側に並ばれるが、小暮が若干はらみ2台は接触。ロッターは軽くコースアウトする。だがすぐに体勢を立て直し、再び小暮に迫った。そして36周目の1コーナー、今度はインから小暮に仕掛けたロッターがオーバーテイクに成功。ポジションを上げた。さらに38周目の1コーナーでは、石浦がインから小暮に並びかける。2台はブレーキをロックさせサイド・バイ・サイドで

Formula NIPPON NEWS 2010.9.26

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第5戦・決勝 [スポーツランド SUGO]

軽い接触をしたものの、石浦がここで小暮をオーバーテイクし、やはりポジションを上げた。

小暮をオーバーテイクした後、この時点で5番手のロッテラーは猛チャージを見せる。ファステストラップを次々に書き換える勢いで、前に行くデュバルとの差を削り取っていった。一方、この時点でトップに立っていたのが大嶋。No.20 平手晃平 (Mobil 1 TEAM IMPUL) オリベイラがこれに続いていた。大嶋はノーピット作戦を採っていた。またオリベイラもスタート直後のピットインの際に給油したことで、その後は最後までピットに入る予定なく走り続けていた。これに対し平手は最初からピットインを行なう予定であり、45周を終えたところでピットイン。この時、油温のアラームが点灯していたため、サイドポンツーンの掃除を行なってコースに戻ったが、アラームが消灯せず再度ピットインを余儀なくされポイント圏外に後退してしまった。

レースが終盤に入ると、トップ争いは激化。2番手のオリベイラが1分09秒台のタイムを連発し、前に行く大嶋を追う。そしてチェッカーまで8周を切った55周目の1コーナーで、オリベイラはあっさりとトップを奪った。その後オリベイラは1分10秒台にタイムを落としたが、そのままチェッカーまで突き進むものと思われた。ところが最終ラップの1コーナーで突如スローダウン。ガス欠のために、ストップすることとなる。惰性で転がるマシンをSPアウトコーナー外側の芝生に止めたオリベイラは、コクピットを下りるとガックリとうなだれ、その場に座り込んだ。

これで再度トップに立った大嶋は最後の1周を危なげなく走り切り、自身にとっての初優勝を果たす。10秒以上あった差を最後には2秒まで削り取ったもののデュバルは2位。ロッテラーは3位。さらに、石浦、小暮、伊沢と続いた。7位にはNo.7 ケイ・コッツォリーノ (Team LeMans)、8位にはNo.3 松田 次生 (KONDO RACING) が入賞。いずれも今季初のポイントをゲットしている。

今日のレースの結果、さらに混沌としてきたタイトル争い。残り2戦でどんなドラマが待っているのか、全く予断を許さない状況だ。

Formula NIPPON NEWS 2010.9.26

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第5戦・決勝 [スポーツランド SUGO]

決勝トップ3 ドライバーのコメント

作戦は昨日の段階から決めていました**総合1位：大嶋和也 (PETRONAS TEAM TOM'S)**

(初優勝)はすごく嬉しいですね。2年目の今年は、最初からいい結果を出せると思っていたんですけど、なかなか結果を出せなくて悔しかったんです。でも、やっと優勝することができて、スッキリしました。今回は一昨日からクルマの調子がかかり良くて、予選でもフィーリングは良かったんですけど、Q2で黄旗が出た時にかなり危険だと思って、途中でアタックを止めたんですね。それで後方からのスタートになったんですけど、そのままレースしても、このコースではオーバーテイクは難しいですし、クルマの調子もいいので、燃費をセーブしながらでも速く走れるだろうという自信がありました。なので、ノーピットで行かせてくれとエンジニアにお願いし、その結果優勝できたので本当に嬉しいです。この作戦は、昨日の段階から決めていました。

これもレースだよ**総合2位：ロイック・デュバル (DOCOMO TEAM DANDELION RACING)**

スタートは余り良くなかった。タイヤを十分に温めることができなくて内圧が低かったんだと思うけど、ものすごくホイールスピンしてしまったんだ。でもセーフティーカーの後のリスタートはものすごく上手く行って、小暮さんをおかわすことができたし、その後のスピードも悪くなかったと思う。後方のマシンに対して、十分なギャップを築くことができたからね。でも、今日2通りの作戦が考えられるっていうことは知らなかった。セーフティーカー中にもエンジニアからは何も言われなかったし、ノーピット作戦が成立させられるかどうかなんて分からなかったよ。ようやくそれを知ったのは、自分のピット作業が終わった何周か後。ピットから「何台かノーピットのクルマがいるかも知れない」という情報が来たんだけど、一体誰がその作戦を採っているんだか分からないし、時すでに遅まっている感じの中、最後まで死に物狂いでプッシュした。ピットに入った僕らの走りは優勝に値するものだったかも知れないけど、残念ながら勝てなかった。でも、まあこれもレースだよ。

残り2戦が楽しみになってきた**総合3位：アンドレ・ロッテラー (PETRONAS TEAM TOM'S)**

今日は色々なことが起きたレースだった。もっと悪い結果に終わったかも知れないし、もっといい結果で終わったかも知れないけど、僕は3位でフィニッシュできたことを喜ばないといけないうじゃないかって思う。今日みたいにクルマの調子が良いと、モチベーションも高まるし、いい結果を期待してしまうんだよね。スタートの動き出し自体は悪くなかった。でもその後、1コーナーではとっ散らかった状態になってしまった。他のドライバーとの接近戦になって、その中でJPと軽く接触してしまったんだ。そしてセーフティーカーが導入されたけど、僕の前には何台かのマシンがいて、その間に充分にリスタートに備えることができなかった。だからリスタートしたすぐ後に、塚越に抜かれてしまったんだ。そこで僕は、予定よりもピットインを早めた。そこからは、前にクルマもいなくてプッシュできたんだけど、小暮に追いついてオーバーテイクを試みた時に、僕がアウト側、小暮がイン側という状況になって彼が少しはらんで僕に軽く接触した。それで僕はコースアウトしたんだけど、TVゲームみたいな感じで上手くクルマを立て直して、すぐにコースに戻ることができたよ。でも接触がなかったらもっと早くロイックに追いついて、オーバーテイクするチャンスもあったんじゃないかと思う。もちろんこのコースでは、オーバーテイクがすごく難しいけどね。でもチームとしては1-3で終わったし、良い1日になった。チャンピオンシップポイントも接近してきたし、残り2戦が楽しみになってきたよ。

本当に上手くハマって良かった**優勝チーム監督：館信秀 (PETRONAS TEAM TOM'S)**

大嶋くんに関しては、本当に上手くハマって良かったと思います。ただ作戦的には、本当はアンドレの作戦が王道だと我々は計算していたんです。その王道だと思ったのが外れたっていうのは、ちょっと我々の計算ミスだったと思いますし、今後

Formula NIPPON NEWS 2010.9.26

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第5戦・決勝 [スポーツランド SUGO]

の課題かなという気はします。まあ、色々ありますけど、今日は大嶋の初優勝を嬉しく思います。ありがとうございました。今日優勝を逃すまで F3 の方は何連勝しているか分からないくらい連勝してきたんですけど、フォーミュラ・ニッポンの方は僕が監督をしているのでシーズン中に1回は勝ちたかった。だから、とても良かったと思います。

第5戦 SUGO ・ 決勝結果
スポーツランド SUGO (全長) 3,704km

天候：晴れ コース：ドライ 開始時 気温/路面温度： 21 /33
開始/終了時間 : 14:33 ~ 15:50

Po	No	Name	Team	Time	Delay	Best time
1	37	大嶋 和也	PETRONAS TEAM TOM S	1:17'52.542		1 10.187
2	1	ロイック・デュバル	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:17'56.080	3.347	1 09.572
3	37	アンドレ・ロツテラー	PETRONAS TEAM TOM S	1:18'09.200	3.538	1 09.301
4	8	石浦 宏明	Team LeMans	1:18'09.200	16.658	1 09.471
5	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING	1:18'18.511	25.969	1 09.982
6	2	伊沢 拓也	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:18'09.200	33.257	1 09.790
7	7	ケイ・コッツォリーノ	Team LeMans	1:18'25.799	33.389	1 09.549
8	3	松田 次生	KONDO RACING	1:18'51.730	55.957	1 10.369
9	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	1:18'51.730	59.188	1 09.986
10	29	井口 卓人	DELIZIEFOLLIE/CERUMO・INGING	1:18'59.577	1'07.035	1 10.198
11	19	J.P. デ・オリベイラ	Mobil 1 TEAM IMPUL	1:16'40.213	1Lap	1 09.544
12	20	平手 晃平	Mobil 1 TEAM IMPUL	1:18'06.127	1Lap	1 09.778
-	10	塚越 広大	HFDP RACING	22'26.738	48Lap	1 10.198
-	31	山本 尚貴	NAKAJIMA RACING	-	62Laps	-
-	18	平中 克幸	KCMG	-	62Laps	-

【この件に関するお問い合わせ】
株式会社日本レースプロモーション
広報担当 外間
media@f-nippon.co.jp